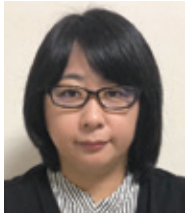
Case Study
支部ケース・スタディ
北海道支部

アジアリーグアイスホッケー生中継 ～氷都・苫小牧の地域スポーツを追う～

ニューデジタルケーブル(株) 苫小牧ケーブルテレビ



制作課
鎌田 早苗

アイスホッケータウン“苫小牧”

海側から見た苫小牧市

雪が多い北海道で、冬を楽しむスポーツと言えば？

おそらく多くの方が、スキーやスノーボードを想像するのではないかと思います。

しかし、近年はオリンピック選手の活躍などにより、フィギュアスケートやスピードスケート、カーリングなど、スキーやスノーボード以外のさまざまな競技にも注目が集まっています。

『アイスホッケー』もそのひとつ。

2014年、アイスホッケー女子日本代表がソチオリンピック出場を決めると瞬く間に全国ニュースに取り上げられ、『スマイルジャパン』の愛称で知れ渡るようになりました。

まだまだ日本では競技人口が少ないアイスホッケーですが、冬に降雪量が少ないという立地条件から、「氷都」と呼ばれる北海道・苫小牧市では昔からスケート競技が盛んです。

苫小牧では幼稚園児からアイスホッケーを始める子どもも

幼稚園に通う小さな子どもたちも、小さなスケート靴と小さなスティックを持って、市内のリンクに通います。小学校の校庭には父母らが水を撒き、凍らせ、また水を撒きと、自前のリンクを作っている学校もあります。

また、市内には4つの屋内リンクと1つの屋外リンクがあり、スピードスケートやフィギュアスケート、アイスホッケーなどの競技を幼稚園児から小学生、中学生、高校生、大学生、社会人、お年寄りまで多くの市民が楽しんでいます。

アイスホッケー教室での小学生たちの練習風景

そもそもアイスホッケーとはどんな競技なのか？

『氷上の格闘技』とも言われるアイスホッケーの魅力は、なんと言っても圧倒的なプレースピードにあります。キーパー1人のほか、ディフェンス2人、フォワード3人がスティックを持ち、パックを追いかけ、縦横無尽にリンクを駆け抜けゴールを目指す。そのスピードゆえにパックを奪い合う攻防や、壁際での激しいボディチェック、選手たちの掛け声や激しい息遣いなども、見ている者たちを釘付けにする魅力のひとつです。

Case Study 支部ケース・スタディ

アジアリーグアイスホッケー生中継 ～氷都・苫小牧の地域スポーツを追う～

ニューデジタルケーブル(株)
苫小牧ケーブルテレビ

5人1セットが氷上でプレーをするのはわずか30秒から1分、目まぐるしくセットが交代しながら、20分間のピリオドを3回戦います。ある時はフェイスオフからわずか3秒でゴールが決まる場面も。片時も目が離せないスピード勝負は、他には無いアイスホッケーの特徴だと言えるでしょう。

地域スポーツを追う

白鳥王子アイスアリーナ

現在、苫小牧市ではアイスホッケーチームが小学生から社会人まで19チーム、およそ1,000人の競技者が苫小牧アイスホッケー連盟に登録。市内4カ所のリンクを中心に、年間およそ40大会・600試合が開催されています。街のテレビ局としては当然、アイスホッケーは番組作りにかかせない要素であると考えます。

王子イーグルスの試合を生中継

特に苫小牧には、1925年創設、94年の歴史を持つ『王子イーグルス』という伝統チームがあり、子供達の憧れでもある日本のトップチームを応援しようと、2008年から取材を開始。

チームにとっても『王子製紙アイスホッケー部』という名称から、より市民に親しまれるチームになろうと『王子イーグルス』に名前を変え、地域貢献活動に力を入れるタイミングであったため、オフシーズンの陸上トレーニングや氷上練習を始め、ごみ拾いや交通安全運動、子供や大人を対象としたアイスホッケー教室などのボランティア活動まで、さまざまな活動に密着してきました。

王子イーグルスの練習やトレーニングにも密着

こうした取材活動が実を結び、チームやアジアリーグに承認され、翌年、アジアリーグアイスホッケー2009-2010シーズンより、とまこまいチャンネルにて王子イーグルスホーム戦の生中継をスタート。白鳥アリーナ(現 白鳥王子アイスアリーナ)で行われた全18試合を放送しました。

生中継への挑戦

苫小牧ケーブルテレビにとっては開局から3年、初めての生中継への挑戦でありました。

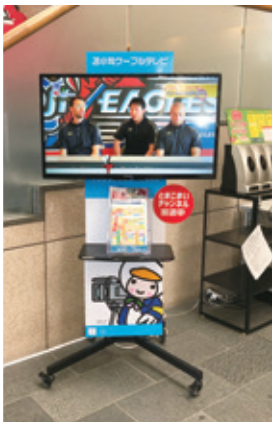
当初は、地域のFM局と協力し、実況・解説の音声を提供してもらい、映像のみをスタッフで担当。無人カメラ2台、有人カメラ2台、スイッチャーやテロッパーなど最低限の機材を揃え、なんとか放送にこぎつけました。

生中継中のスタッフ

しかし、複雑なアイスホッケーのルールやペナルティ、スピードの速い選手たちやパックの動きを映像に収めることに苦労も。試行錯誤を重ねながら、放送を続けました。

その後、ハイビジョン放送となり機材を一新した2014年からは、ハイライトやゴールシーンなどスロー映像を試合中に出すなど、映像を充実させたほか、アイスホッケー競技の経験者であるスタッフが実況を担当し、王子イーグルスの元選手や、元監督を解説者として招き、音声も独自で構成。さらに、会場限定で聞くことができるFMラジオの運営を行うなど、改善を重ね、今シーズン、生中継開始から10周年を迎えることができました。

実況・解説陣と王子イーグルスのマスコットキャラクター


リンク入口に設置した実況中継のモニター

取材開始から11年。今では『王子イーグルスの試合を見るならケーブルテレビ』という認識も市民の間で定着。また協力機関も増え、リンクの入口ロビーにテレビを設置し、とまこまいチャンネルを常時放送してもらうなど、ケーブルテレビを応援してくれる方が増えていることにも喜びを感じています。

また、取材当初、小学生だった選手が平昌オリンピックに出場したり、アジアリーグの第一線で活躍する選手に成長するなど、活躍を追い続けることができるのも地元局の強みであり、足が悪くてなかなか会場に赴けない元選手だというお年寄りや、息子が、または孫がアジアリーグの選手だという家族の皆様からも「放送を楽しみにしているよ」と嬉しい言葉をいただいています。

スポーツ都市宣言から53年。未来へ

苫小牧市は1966年(昭和41年)11月、全国で初めてスポーツ都市宣言を発表し、「苫小牧市民はスポーツを愛し、スポーツを通じて健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築く」という理念を柱に、スポーツを通じた地域の活性化に取り組んできました。

王子イーグルスを応援する市民応援団

スポーツ都市宣言から53年。選択できるスポーツの増加や手軽さから見ても、近年アイスホッケーの競技人口は減少傾向にありますが、苫小牧市ではスポーツを「する人」「観る人」「支える人」「つながり」の観点から施策を進めることで、多くの市民にスポーツに携わる機会を創出していきたいとしています。

我々、地域密着のケーブルテレビ局は、これを使命とし、これからも情報発信やスポーツの魅力を伝えることはもちろん、記録だけではなく『記憶』や『感動』を市民と共有できる媒体でありたいと考えています。